教員向け講演会

“琉球大学2013年度国家試験の対応について”と題する

医師国家試験予備校MEC 塩沢昌英先生による「第4回医師国家試験対策教員向け講演会」をお聞きして

去る平成25年７月10日18時30分より、琉球大学医学部医学科教員向けの上記講演会が開催されました。本講演会はMECの医師国家試験対策のエキスパート塩沢先生が（“Dr.一茶”）、琉大のために時間を作って下さったものでした。

今回も教員その他の先生方にお声かけをし、**43名**の先生方にお集まり頂きました。

琉大医学科では、H24年12月よりM5学生に対し「初の総合試験Ｉ」を開始しましたが、一茶先生からは『「Ｍ５の総合試験」は功を奏している！しかしどの国立もやり始めているので、今後はこれをどう維持するか、である。10月以降をどう過ごすかも大切。また現在琉大の国家試験合格率は全国では低い位地にあっても、入学時の偏差値は割と高い。しかし“４年以内”くらいに国試合格率をもっと上げないと、次第に入学者の偏差値も低下してくるであろう。』という厳しいお言葉を頂きました。“一昔前の医師国家試験経験者”である私達の時とは、かなり異なる状況で現在の国家試験は行われており、詳細に分析することで様々な対策がとれること、様々な対策をとらないと“医師国家試験合格率アップ”には繋がらないであろうことをひしと感じました。

①以前医師国家試験が２日間であったのと異なり、現在は３日間であるため、“一夜漬けの徹夜”で乗り切れるものではなく、問題数も多く、３日間持続する健康管理から精神状態管理（問題の出来不出来で途中落ち込んでしまうと、その後の解答に影響が出る）、気力・やる気・集中力の維持（琉大生はじめ国公立大では、３日目の最後にマークミスが多い）等、"正解を解答する"という本来の目的以前の問題がまず山積している。[私立大学では、５年生頃より“３日間の試験”を行い慣れさせ、体力をつけさせるようにしているところが増えている。]

②平成23年３月11日の震災後、３日間の試験が万一２日間で終わったとしても採点できるような“問題配分”に変更された。

③第107回国試では前年に比し、A形式（「１つ選べ」形式）数は２問減、X2、X3形式（「２つ選べ」「３つ選べ」形式）は微増。

④問題全体の傾向として、以前よりもかなり“臨床的・応用的問題、最近のトピックス”からの出題が増加し、記憶力で解けるものだけでなく、